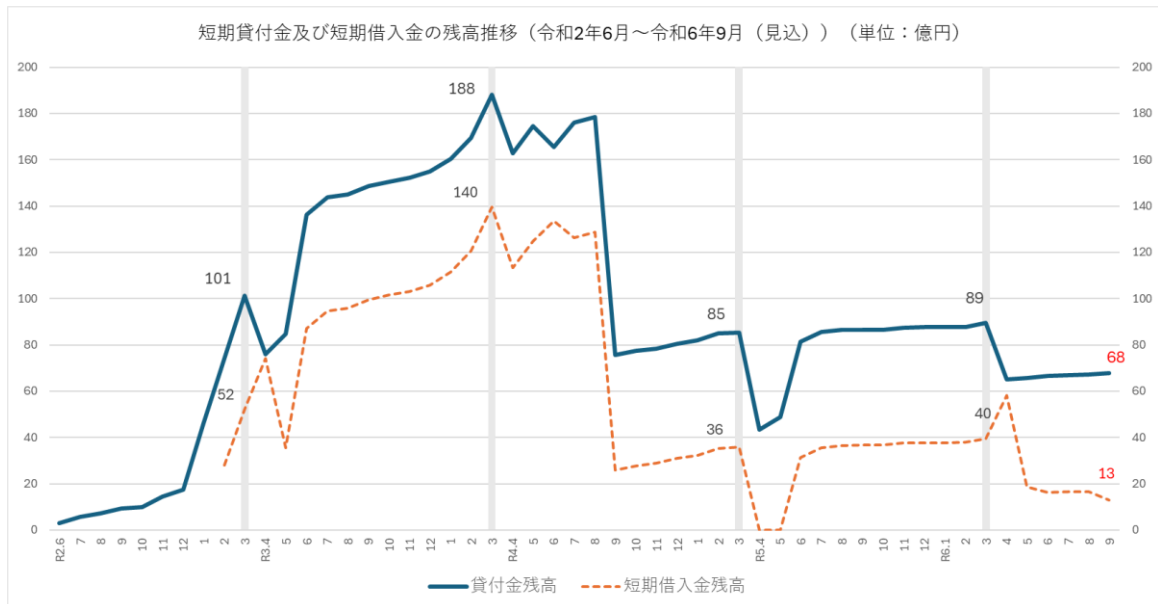


全国漁業共済組合連合会に対する貸付けの状況及び今後の見通しについて

1. 全国漁業共済組合連合会に対する貸付状況

(1) 令和5年度の貸付実績

令和5年度の共済金支払額は対前年度比94%の271億円と、引き続き高い水準となり、国の保険金支払財源に不足が生じた。このため、信用基金から全国漁業共済組合連合会（以下「漁済連」という。）に対して、延べ95億円の未払保険金相当の貸付け（借換貸付けを含む。）を行った。一方、国から支払われた保険金等を財源として、漁済連から信用基金に91億円の貸付金が返済されたことから、令和5年度末の貸付残高は89億円（対前年度比105%）、借入残高は40億円（対前年度比110%）となった（中期計画に定める短期借入金の限度額は185億円）。



注）令和6年9月は、漁済連調べに基づく見込額である。

グラフ中の黒字は各年度末の残高、赤字は令和6年9月末の残高見込額である。

(2) 令和6年度上半期の状況と今後の貸付見込み

共済金の支払は、令和3年度をピークとして減少傾向にあるものの、幅広い漁業種類での不漁の継続、自然災害の影響等により、依然として高水準で推移している。

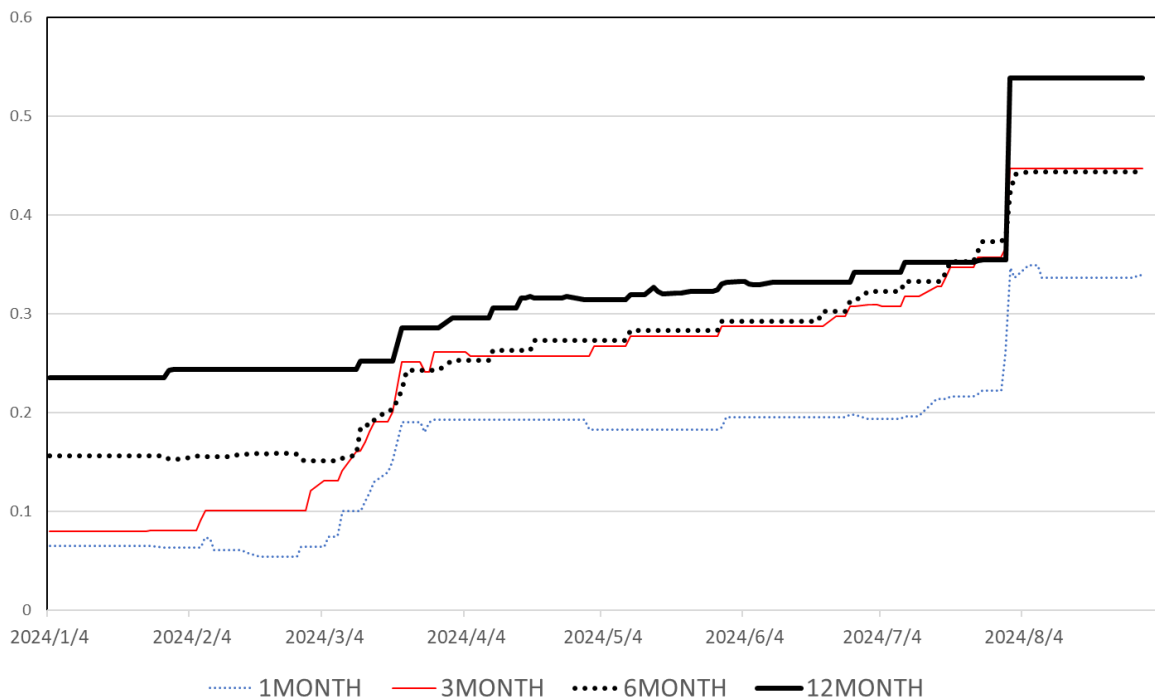
令和6年度上半期は、信用基金から漁済連に延べ86億円の貸付け（借換貸付けを含む。）を行い、9月末現在の貸付残高は前年同期を19億円下回る68億円となる見込みであるが、これは主として特定養殖共済のうち「のり等」に係る共済金支払が比較的低位にとどまったことによるものであり、引き続き予断を許さない状況にある。

下半期においても、現時点で具体的な貸付額は予想できないものの、漁済連への貸付けは継続する見込みであり、引き続き円滑な貸付けの遂行に努めるものとする。

2. 貸付金利について

- (1) 信用基金は、令和3年4月から、漁済連に対する貸付金利を「全銀協日本円 TIBOR レート+0.35%」としている。これは、民間金融機関から借入れて漁済連に貸し付けることが相当規模で継続すると見込み、信用基金の貸付金利が、民間金融機関から信用基金が借り入れる金利と逆ざやにならないよう措置したものである。
- (2) 前回の運営委員会において、令和4年度後半以降の借入金利と貸付金利との差に縮小がみられたこと等を踏まえ、「今後の金融動向を注視しつつ、必要に応じて更なる見直しを行う可能性もある」としたところ、令和6年度最初の借入となった4月の借入において、借入金利に明確な上昇が見られた。しかしながら、貸付金利の基礎となる「全銀協日本円 TIBOR レート」も上昇しており、借入金利が貸付金利を上回る事態になっていない。
- (3) 今後、金利情勢等の変化によっては、貸付金利を見直すことが必要となる可能性もあるため、貸付利率の見直しを行った場合には、次回の運営委員会において報告することとする。

全銀協日本円TIBORの推移（2024年1月4日～2024年8月30日公表分）（単位：年%）



以上